



草刈りのプロ集団「稲美畦師」の設立

くさたにがわ

草谷川環境保全協議会（兵庫県加古郡稲美町）

- 本地域は播磨平野東部の東播磨地域に位置しており、一級河川加古川の支流草谷川の両岸に跨る。農地は60%以上が県営圃場整備事業によって区画化され、溜池からのパイプラインによるかんがいにより大部分が水田（稲作）となっている。その他、集落近傍で家庭園芸がなされている。
- 草谷川環境保全協議会は草谷川土地改良区及び稲荷池水利組合の2つの水利組織と、その中に農業関係者167人と4営農組織、及び各種団体で構成している。
- 令和4年に兵庫県東播磨県民局及び3大学（神戸大学、兵庫県立大学、京都大学）との連携協定を結び、地元の市町の農業施設（特にため池関連）の困りごとを解決する組織として、「一般社団法人ため池未来研究所」を発足。ため池を中心に各農業施設の困りごとの相談に応じている。
- 近隣で活動する草刈りグループから刺激を受け、新たな草刈りのプロ集団「稲美畦師（いなみあぜし）」を設立。活動を通して、地域を担う人材を育成していく。また、一般社団法人ため池未来研究所との連携により、活動組織及び土地改良区役員引き継ぎ体制を構築していく。

【地区概要】

- ・ 取組面積：71.5ha
(田 69.4a、畑 2.1ha)
- ・ 資源量：水路11km、農道5km、
ため池4箇所
- ・ 主な構成員：農業者、自治会、土
地改良区、水利組合、
営農組合
- ・ 交付金：約4百万円（R5）

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

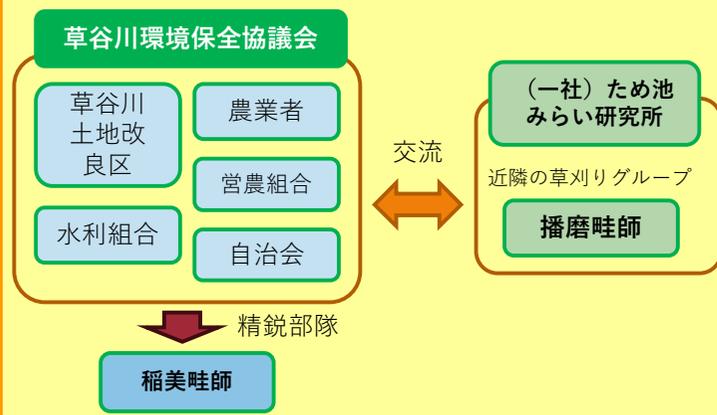
地域の状況や課題

- 個人で維持管理が行えない農地は地域の営農組合が管理を担ってきたが、営農組合の役員も高齢化が進み、負担が大きくなっている。
- 活動組織と土地改良区の役員は重複しており、役員継承に苦慮している。特に土地改良区の経理事務においては、複式簿記を扱える人材が少ない。
- 東播用水から各ため池への用水供給など、配水管が複雑であり、技術の継承が難しい。



取組の内容

- 近隣の畦師グループの活躍から刺激を受け、新たに草刈りのプロ集団「稲美畦師」を設立。活動を通して、地域を担う人材を育成していく。
- ため池みらい研究所との交流から新たな役員を採用。役員継ぎ体制を見直し、令和7年度から新たな引継ぎ体制を実施予定。



取組の効果

- ため池みらい研究所と関わる中で、行政や大学の他、様々な活動に従事する農家や市民、学生との関係性ができ、刺激や勇気もらった。
- 地域から新しい畦師グループが発足したことにより、地域活動の継続への安心感が広がった。
- 草刈りのプロ集団による作業により、作業時間が短縮できた。
- ため池みらい研究所との交流から、新たな役員を採用することとなり、継続的な組織運営へと繋がる。
- また、神戸大学農学部との意見交換も行っており、若い発想に期待を寄せている。

地域の悩み

- ・地域の高齢化が進み、草刈り作業が農地を維持管理する上で大きな負担となっている。
- ・活動組織の役員と土地改良区の役員メンバーは同じであり、役員の継承に苦慮している。
- ・配水管理も複雑で技術の継承が難しい。

交流

Step1-1 (R6.3)

畦師グループ設立を決意

- ・ 営農組合の草刈り作業を補完する組織が必要。
- ・ ため池みらい研究所との関わりや、近隣の畦師グループの活躍から、自分たちも地域の力になりたいという思いが募る。

Step1-2 (R6.4)

メンバーの募集

- ・ 営農組合のメンバーを中心に勧誘を実施。
- ・ 思いを同じくする40代～60代の農家の長男・次男を中心に8名で草刈りのプロ集団「稲美畦師」を結成。

自分が動けば地域を変えていける！

一度荒廃すると取り返しがつかない・・・
田園風景を後世に受け継ぐ橋渡しになれば。



Step1-3 (R6.6～)

稲美畦師として活動

- ・ 稲荷池水利委員会が管理する稲荷池の堤体の草刈りを実施。
- ・ 今までは役員で数時間かけて行っていた草刈りが30分で終了。

Step1-4 (R6.8)

意見交換の実施

- ・ メンバー間で意見交換を実施し、畦師の目的、活動予定等について、合意形成を図った。
- ・ 土地改良区エリアを中心に活動し、徐々に活動エリアを広げていく。
- ・ 草刈りの品質の確保を検討するとともに、メンバーの継続確保を目指す。

Step2-2 (R6.3)

(一社)ため池みらい研究所との連携

- ・ 事務業務の継続的な運営について、ため池みらい研究所に相談したところ、研究所の研究員に会計事務を依頼することになった。

(一社)ため池みらい研究所の取組

- ・ ため池みらい研究所のプロジェクトの一つとして、草刈り問題の解決に向けて、草刈りをメインに請け負うグループ(畦師グループ)が生まれやすい環境づくりを実施。地区周辺には「播磨畦師」など、複数の組織が存在するが、プロジェクトの関係上、学生の参加が多い。

さらに、土地改良区の経理事務についても、ため池未来研究所に相談したことをきっかけに、女性1名を理事(員外)として登用予定。

Step2-1 (R6.4)

引継ぎ体制の見直し

- ・ 役員の見継ぎ体制(段階的な見継ぎ)の見直しを検討。能力にあった合理的な見継ぎの手法を模索。

配水管理についてもマニュアルの作成、規約を制定でルール化し、管理体制の強化を図る。また、ICT管理の導入を検討。

今後の展望

- 稲美畦師としての活動を通して、地域を担う人材を育成していきたい。
- 実績を積み重ね、メンバーと協議し、地域の農地保全の一環を担える団体になればと考えている。

